

公立高校のあり方に関するタウンミーティングでの主な意見

○阿南会場（１０月１４日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---------|--------------|---|
| 将来の高校の姿 | 多様なニーズに応える教育 | ・生徒の多様なニーズに対応でき、進路実現（就職・進学）が可能な学校。 ・既存の教育課程に縛られない先進的な学びの場。 ・不登校対策に特化した学校。 |
| | 進路を意識した人材育成 | ・地域の人が出入りできる学校を交流の拠点とし、地域に根ざした学校（文化、産業など）。 ・高校を卒業して県外に行っても地元に戻ってきてくれる生徒の育成を目指す。 |
| | 教育の特性 | ・何か（進学・部活動・カリキュラムなど）に特化した学校。 ・全国で一位になれるような部活動がある高校。 |
| 特色化・魅力化 | 就職・進学の両面での特化 | ・進学に特化したクラスのある学校（習熟度別のクラス編成が理想）。 ・船舶、山林、大工、左官、配管工など、就職を前提とした学科。 ・人手不足で求められている人材（歯科衛生士、介護職員）を育成できる学科が必要。 |
| | 地域連携 | ・地域に求められる、地域に根ざした学校を目指す。 ・医工連携を学べるコースの設置。 |
| | 多様な選択肢 | ・生徒の学習状況に合わせ、能力育成ができる学校。 ・選択肢の多い学校。 |
| 規模・配置 | 教育環境の整備 | ・教育環境のしっかりした大きな学校を整備した方が良い。 ・複合型の大規模校と特化型の小規模専門校の併存。 ・部活動で、単独チームで大会に出場できる、またはクラス替えが可能な規模。 |
| | 地域均衡配置 | ・高校はまちづくりに不可欠であり、その存在価値は多岐にわたるため、生徒数が減少しても教員数は確保すべき。 ・過疎地にも配置し、通学に困らない高校配置が重要。 |
| その他 | 予算の柔軟性 | ・特色化・魅力化を進めるには、学校が自由に使える予算が必要（神山高専をモデルに）。 ・専門教員は給料を上げ、他県からスカウトできるようにすべき。 |

○小松島会場（１０月１５日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---------|----------|--|
| 将来の高校の姿 | 連携 | ・地域や企業と連携し、就職につながる人材を育成する高校であること。 ・大学との連携強化（高大連携）や、高校どうしの交流機会を増やす連携を進める。 ・多様な国の人と共に学び、国際化を図る高校として人材育成の拠点となること。 |
| | 選択肢の提供 | ・生徒が学びたい分野を自由に選択できる単位制を導入し多様な選択肢を提供。 |
| | 学校生活 | ・「青春を満喫できる学校」や「遊びと学びが充実している学校」といった、学校生活の充実。 |
| | 環境・整備 | ・きれいな校舎、整った設備がある学校。 ・「制服がおしゃれ」な学校。 |
| 特色化・魅力化 | 能力育成 | ・将来社会で役立つ学びを重視し、生徒がどんなことにも挑戦できる環境を作ること。 ・必須単位の見直しをして、やりたいことが選択できる時間を作る。 |
| | 未来への貢献 | ・地域未来に関わる人材育成を行い、卒業生が地元に戻ってくるような学校作り。 |
| | 専門性の高い学科 | ・職人科、プログラミング科など、他にないのがった専門性の高い学科を設置する。 ・看護師等を育成する職業に特化した教育。 ・金融リテラシーを学べる高校。 |
| | 外部資源の活用 | ・地元や最先端で活躍している外部人材を積極的に活用し教育の充実を図る。 |
| 規模・配置 | 選択肢の確保 | ・1 学年 100 人以上、または 1 学年 3 クラス以上など、活動維持が可能な一定規模を確保。 ・中学生が選択肢を持てるように、小規模でも高校は存続させて欲しい。 |
| | 通学の利便性 | ・交通の利便性が良く、目安として 30 分以内で通うことができるような配置にすること。 ・生徒の安全のため、通学の利便性と共に安全な通学路を確保する必要がある。 |
| その他 | 交通費補助 | ・学びたい学校で学ぶため、JR やバスなどの交通費補助といった公費支援が必要。 |
| | 入試制度の改善 | ・生徒がチャレンジできるよう、複数回受験できる入試制度が望ましい。 |

○鳴門会場（１０月２８日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---------|---------|---|
| 将来の高校の姿 | 進路と実績 | ・就職から進学まで、生徒の希望が叶えられる進路指導が行われる学校。 ・進学面やスポーツなど強みがあり、部活動（文化・体育）で全国上位の成績を上げられる学校。 |
| | 学びの多様性 | ・生徒自らが、自分の将来と地域の未来を結びつけて主体的に考えられる高校。 |
| | 地域との関係 | ・地域の中学生に望まれる学校であるとともに、地域住民と交流できる高校。 ・地元愛を育む学校。・地域のリーダー養成ができる学校。 |
| 特色化・魅力化 | 学力 | ・理数系人材の育成が重要であり、DX や AI など成長分野の学びができる教育や、理数系だけでなく英語を重視した学科の設立が必要。 |
| | グローバル | ・留学制度の充実や海外大学への推薦制度（指定校推薦枠の確立）を進める。 |
| | 外部連携 | ・大塚製薬との連携による職業人教育「大塚学園（仮）」の設立。 |
| | 人材と環境整備 | ・指導に関して専門性の高い教員、部活動指導に関してその道の専門家を顧問に採用する。 ・遠距離からの生徒を受け入れるため、学校の近くに魅力的で設備が整った寮を整備する。 |
| 規模・配置 | 要件 | ・クラス替えができる規模、または団体競技ができる程度の生徒数は欲しい。 ・最低でも 1 学年 200 人程度の規模が望ましい。 |
| | 交通機関 | ・JR 鳴門線や高德線の増便を希望。・汽車やバスの利便性を良くすること。 |
| その他 | 入試制度 | ・中学校による高校入試の出願調整の在り方を改善し、生徒がキャリアを考えた上で本 当に行きたい高校を志願できる制度に。 ・育成型選抜の枠が多すぎることが、生徒が勉強しない一因。 ・受験機会の創出のため、第 2 志望校まで受験できるようにすること。 |
| | 施設・設備 | ・老朽化している県立高校が多いため、創造的で協働的な学びを実現できる、今の時代に あった教育環境の改善を進めるべき。 |
| | 財政支援 | ・私立高校無償化を上回るような学費支援の充実が必要。 |

○徳島会場（１１月１０日）

| テーマ | カテゴリー | 主な意見及び特徴的な意見 |
|---------|-------------|---|
| 将来の高校の姿 | 将来の進路選択の明確化 | ・子どもたちが就きたい職業を自由に選択できる高校。 ・飛び級ができ、大学と連携して理数系の研究、外国への進学が可能な仕組みをもつ高校。 ・地域の環境を生かすとともに、大学進学や就職など出口がしっかりしている高校。 |
| | 全国に誇れる特色 | ・スポーツ・文化・学力など何でもいいので、全国に誇れるものに特化した高校。 |
| | 多様性と主体性 | ・外国人(特にアジア圏)を多く受け入れ、共生社会を作るための資質・能力を育成する高校。 ・主体的に学び活動できる、文武ともに可能性と能力が高まる高校。 |
| 特色化・魅力化 | 地域への貢献意識の醸成 | ・徳島について研修し、よく知ること徳島を活性化させる魅力を発信する人材育成。 ・企業の職場体験を高 1、高 2 段階で複数回できるようにする。 ・学校の通学日を厳選し、地域活動やインターン、旅行などに取り組める日を増やす。 |
| | 専門性特化 | ・普通科でネットリテラシーやコンプライアンス、マネーリテラシーなどを教授する。 ・アニメ学科やマリンスポーツ科の創設。・世界の時流に乗っている教育を行う。 ・フリーランスや起業について学べるコースの設置。 |
| | 外部資源の積極的活用 | ・各分野のスペシャリストや民間企業を活用する。 ・地域人材をもっと活用できるように、コミュニティ・スクールを充実させる。 |
| 規模・配置 | 集約 | ・思い切った統合をして、一定の学校規模を維持する。 ・進学対応や部活動維持のため、最低一学年 4 学級は必要。 |
| | 規模の多様性 | ・規模は、大・中・小とあってよく、県内にバランス良く散らばっていることが重要。 ・一定エリア内で特色を持たせた学校を作り、普通科ばかりが残らないようにする。 |
| | 配置の利便性 | ・高校生が自分で通いやすい配置（現状からなるべく減らさないで欲しい）。 ・通学に最大でも 30 分程度で通える学校。・交通インフラが整っていること。 |
| その他 | 学区制撤廃に伴う責任 | ・予算をかけ、交通インフラや寮を設置し、生徒たちが不利益にならないように。 ・最新設備の整ったきれいな校舎を。・築 50 年を超える校舎は早く改築を。 |
| | 教員養成 | ・質の高い教員の養成。・教員のモチベーション維持や質の確保も重要。 |
| | 多様性 | ・全日制だけでなく、定時制や通信制の魅力化についても検討する必要がある。 |